

平成30年度 当初予算事業の概要説明書 (兼評価説明書)

1. 事務事業の概要

□ 完了 ■ 評価対象 ■ 行計対象

事務事業名 (中事業)	21254 地球科学館管理事業				
基本政策	03 ころ豊かな人が育ち、いきいきと活躍できるまち				
政策	03 豊かな人間性をはぐくむ生涯学習				
施策	01 学習活動の展開と内容の充実				
実施形態	一部委託				
事業期間	複数年(要「債務負担行為」)		平成25年度～平成31年度		
要求区分	継続		予算区分	標準	
事業の実施を市に義務づける国の法令					
有無	なし				
法令名					
予算科目	01-100509-010100				
部名	50 教育委員会		課名	04 生涯学習課	
課長名	山本 昇司		T E L	0795-22-5996	内線 750

2. 対象・目的・内容

事業概要	地球科学館の管理運営について、平成25年度から指定管理による管理運営を実施している。
事業の対象 (誰・何を)	地球科学館の利用者
事業の目的 (どういう状態にするために)	地球科学館条例に定められた目的を達成するため(東経135度北緯35度の交差する西脇市の位置的条件を明確にするとともに、地球及び天文に関する知識の普及及び啓発を図り、創造性豊かな青少年の育成に寄与する)
事業の内容 (どういう内容を行うのか)	地球科学館の施設管理および目的達成のための展示及び普及事業の実施

3. 年度別事業費

(単位: 千円)

	事業費							
	国庫支出金	県支出金	地方債	分担金負担金	使用料手数料	その他	一般財源	
平成27年度決算額	10,103	0	0	0	0	4,020	664	5,419
平成28年度決算額	20,432	0	0	0	0	3,786	643	16,003
平成29年度決算額	13,318	0	0	0	0	3,610	526	9,182
平成30年度予算額	17,479	0	0	0	0	3,700	6,540	7,239

4. 総コストの概算

(単位: 千円)

平成29年度のこの事業に従事している職員数		従事職員数	人件費(A)	平成29年度決算額(B)	総コスト (A) + (B)
一般職員	嘱託・臨時職員				
1.00	0.00	1.00	7,791	13,318	21,109
事業費の主な用途 施設管理費6830千円、展示事業費777千円、普及事業費2,082千円、修繕費3,089千円ほか					

平成30年度 当初予算事業の概要説明書

(兼評価説明書)

2 頁

5. 事業の実績・目標

活動 指標 ①	指 標 名	開館日数			単 位	日
	説 明 や 数 式	開館した日数				
	年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	目 標 値			312	312	
	実 績 値	312	312			
	経費(千円)	19,832	21,109			
単位当たりのコスト	63.56	67.66				
活動 指標 ②	指 標 名	天体観測会実施回数			単 位	回
	説 明 や 数 式	夜間の天体観測会実施回数				
	年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	目 標 値		65	65	65	
	実 績 値	67	68			
	経費(千円)	0	0			
単位当たりのコスト	0	0				
成果 指標 ①	指 標 名	施設利用者数			単 位	人
	説 明 や 数 式	施設を利用した人の数				
	年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	目 標 値		23,000			
	実 績 値	23,940	22,127			
	経費(千円)	19,832	21,109			
単位当たりのコスト	0.83	0.95				
成果 指標 ②	指 標 名	天体観測会参加者数			単 位	人
	説 明 や 数 式	天体観測会に参加した人の数				
	年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
	目 標 値			2,500	2,500	
	実 績 値	2,256	2,687			
	経費(千円)	0	0			
単位当たりのコスト	0	0				
実績・成果 等の説明	<p>ゴールデンウィークや8月、正月などに臨時開館を実施することで入館者の利便性を高め、施設利用者数は増加傾向である。また、夜のスターウォッチングでは、プラネタリウムコンサート等のイベントと並行して実施することで、参加者増に努めている。</p>					

6. 評価

1 次 評 価	評 価 ポイント	事業の優先度(緊急性)	4	事業の必要性	2	実施主体の妥当性	4
		直接のサービスの相手方	1	受益者負担の適切さ	4	市民ニーズの把握	3
	事業の 総合評価	継続実施					
	説 明	開館から25年にわたり事業を継続的に実施し、市内のみならず市外からも来館者があり、リピーターも増加している。また、テラ・ドームで星に興味を持ち、天文学の道に進んだ子どもも何人もいるなど、成果が上がっている。今後も引き続き継続的に事業を実施していく必要がある。					
2 次 評 価	評 価 ポイント	事業の優先度(緊急性)	3	事業の必要性	2	実施主体の妥当性	4
		直接のサービスの相手方	1	受益者負担の適切さ	4	市民ニーズの把握	3
	事業の 総合評価	改善・見直し					
	説 明	各種講演会、講習会等を開催し、利用者の増加やリピーターの獲得に努められており、また、臨時開館などにより利用者の利便性を高められているところは評価できる。科学館の管理については、指定管理者により管理が行われているが、その仕様についてあいまいな部分があることから、業務の範囲、リスク分担等について、より明確化する必要がある。また、昼間の時間帯の利用者が少なく、天体観測など夜間に事業を行うことがあることから、開館時間の見直しなど、管理内容の見直しを図り、より効率的な管理運営の検討をすべきである。					